

会 議 録

会議名	第2回 宇都宮駅東口地区整備推進懇談会	
開催日時	平成22年3月23日(火) 午後3時～午後5時	
開催場所	宇都宮市役所14A会議室(市役所14階)	
出席者	委員	古池弘隆, 林香君, 柿沼賢, 須賀英之, 安藤正知, 中津正修, 大森郁雄, 國谷渡, 今井源一, 南木成夫, 荻美紀, 酒井誠 (12名)
	事務局	総合政策部長, 総合政策部次長, 駅東口整備推進室長, ほか8名
公開・非公開	公開	
傍聴者	0名(報道関係者8名, 関係者2名)	
次第	1 開会 2 会長挨拶 3 議題 (1) 事業用地の民間暫定利用募集結果について (2) 宇都宮駅東口地区における公共施設の導入機能について 4 その他 5 閉会	
会議の結果	1 本日の意見を踏まえ庁内で検討を進めるほか, 事例調査や情報収集をして次回の会議で報告する。 2 次回は平成22年6月下旬頃開催する。	
発 言 要 旨		
議事(1) 事業用地の民間暫定利用募集結果について		
今井委員	大和ハウス工業の利用期間は平成23年2月までとなっているが, そのあとは引き続き民間募集するのか。	
事務局	具体的な利用についてはまだ確定していない。今後の検討事項である。	
古池会長	駐車場利用が多いように思われるが, 事業者であるみんなやさくら食品と, 市の暫定駐車場との違いはあるのか。	
事務局	市の暫定駐車場は, 最初の30分以内の入出庫は無料であるが, 基本20分100円で民間事業者が運営している。一方みんなやさくら食品は, 餃子を食べに来た人やお土産を買いに来た人を対象とし, その方々については1時間無料。それを超える場合や駐車場利用のみの人については30分250円, 1時間500円と設定し, 周辺駐車場の運営を妨げないような料金設定をしている。	
國谷委員	さくら食品が利用用途で示してあるイベント広場とは, 具体的にはどのようなことをやるのか?	
事務局	地元の人々がイベントをやる時に利用できるようにする。具体的には「花みずきフェスタ」などのイベントの際の場所の提供を想定している。	
南木委員	駅東で商業会会長をやっているのですが, ちょうど今「花みずきフェスタ」の駐車場を	

	探している。駅東口に近いところで100台程のスペースを探しているのだが、どこか周辺にないだろうか。
事務局	現在、東西自由通路交差部工事や市営駐輪場整備工事などが進行中であり空きスペースがない状態であるため貸し出すのは難しいと考えている。
安藤委員	さくら食品は、イベント広場の利用に関して募集をかけたか？
事務局	これまでの協議では聞いていない。
議事（２）宇都宮駅東口地区における公共施設の導入機能について	
酒井委員	判断資料として、全国的にあるコンベンションの規模や運営状況の事例がほしい。事例を見て宇都宮にふさわしい規模を検証していくべきだと思うし、それにより群馬県や茨城県などの近隣との棲み分けも図れるのではないかと。また、市の文化会館や体育館など既存施設との棲み分けも考えていかなければならない。せっかくこういったものを建設するのであればしっかりとした検討し相乗効果を産み出すことが必要であると思う。
事務局	既存施設との連携や役割分担は明確にしていきたい。また、次回までに他都市の事例も整理して報告したい。
酒井委員	コンベンションの規模はどれくらいを想定しているのか。
事務局	1,200人規模の大ホール、700人規模の小ホール、大小10室程度の会議室全体で12,000㎡程度を想定している。
中津委員	宇都宮市文化会館が老朽化している話を聞いたが、本地区でそれに替わるものを検討する考えはあるのか。また、提示された新たな導入機能は全て大切な公共機能と思われるが、総花的で市の玄関口、整備テーマを踏まえると、こういうものでよいのか疑問に感じる。さらに、公共施設が独立して議論されているが全体計画の中では当然民間事業者の参入を想定しており、公共施設よりも大きな機能も持つということになっている。そういうものの人の流れや情報の流れを考えてこういう案ができたのかが見えてこない。例えば資料に地産地消とあるが会議だけのためにこういった施設を持つことは考えられない。民間のホテル等がホテル業をやりながら行うのが普通である。民間と公共を分離した独立の建物でいいのだろうか。検討にあたっての視点でも都市機能の更なる集積や都市ブランド力の向上を目的としている。このレベルでいいのか、もう少し検討する余地があるのではないかと。
古池会長	前回の計画では民間主導に公共がついていけなかったのだが、今回は公共主導というよりも公共独走という感じがする。資料2-2に提供するサービスの例示として宿泊施設があるがこれも民間との連携を図れるような気がする。
中津委員	宿泊施設はもっとインターナショナルなものを考えなくてはいけない。そうしないと東口は宿泊する所がなく経済効果を失ってしまう。民間事業者のホテルを誘致するときに、公共公益の中にコンベンションがあると相当メリットがあり、そういったシナジー効果を考慮して計画を立てるべきだ。
古池会長	今の時代、民間もホテルだけを建設してもなかなかうまくいかない。建設するに見合っただけの魅力のある施設などで相乗効果が期待できるよう、事務局も公共と民間の連携を考えてほしい。

國谷委員	参考資料でコンベンションの事例をみると稼働率が異常に高いが、駅から近いだけが要因なのか。
事務局	施設の特徴としては、岡山と札幌の施設は平土間のホールとなっており全て分割利用が可能である。そのためいろいろな利用方法が可能となり、稼働率の上昇につながっていると思われる。一方、つくばと佐世保はホールが一部固定式となっているため、利用形態が限られてしまい稼働率が若干低い。全国的にも平土間の施設は稼働率が高い傾向となっている。
古池会長	例えば札幌で大ホール2,500席平土間と書いてあるが、ホールを分割して一度にやるということもあるのか。
事務局	札幌はホールの3分割が可能と聞いている。ホールを分割することと、それにより利用料金が下がることにより稼働率が高いと思われる。
酒井委員	3分割して1つ利用しても稼働率にカウントされるのか。そうすると2/3は余っていることになるのでは。
古池会長	最初に酒井委員から指摘のあった他市事例調査とあわせて、稼働率や駅からの距離などをもう少し調べてみてはいかがか。
林委員	そこに人口や周辺都市の情報も加えたほうがよい。例えば宇都宮市は人口が集中しているが、茨城県の水戸市などは人口が周辺の都市にも分散している。都市の集中の度合いも考慮すべきだ。
安藤委員	医学系学会の需要が見込まれると書いてあるが、どのくらいの頻度で開催されているのか。また、今度のコンベンション施設にどれくらい誘致できるのか。
事務局	詳細は次回説明するが、独協医科大と自治医科大では過去2年間で20回程開催している。規模的には1,000~2,000人程度で、20回のうち半分は市内、半数は東京や大宮で開催している。そういった医学系の団体にヒアリングした結果、地元で開催したいという意向を持っているという回答が多々あった。
安藤委員	コンベンションは施設を建設するだけではなく、しっかりとした民間のノウハウがなければ運営できない。施設をつくったから来てくださいということではないと思う。その根底の部分がいまひとつ見えないところである。
林委員	宿泊がかなり問題だと思う。去年、1,600人程の会議を県総合文化センターで行ったが、宿の予約が間に合わなく鬼怒川のほうまで持っていった。全国から来る場合には数日間の滞在が見込まれるため、宿泊施設については十分にリサーチしてほしい。
古池会長	コンベンションの失敗事例などを調べてみてはどうか。なぜ失敗したのかを分析することも今後につながる。
酒井委員	コンベンションを運営している事業者にヒアリングをかけることも是非行ってほしい。
中津委員	「21世紀のまちづくりをリードする産業・情報・交流の新たなゲートシティ」といった大きな目標を掲げている以上、もっと大きな枠組みで議論してほしい。宇都宮市文化会館や県の総合文化センターは、大ホールの稼働率は低いですが300~500人の小ホールの稼働率は極めて高いと聞いている。そういったことも考慮しなくてはいけない。また、資料の導入機能案にある「子育て」、「市民団体」、「環境」などは非常に重要な

	ことではあるがあくまで各論の話であって、目標としているゲートシティとしての枠組みを明確にしてから議論しないとなかなかうまくいかないと思う。
古池会長	資料にある国際会議のマーケットの現状の中で、2008年には2,100件開催されたと示されているが、これがどのくらい大きな規模なのかがわからない。国内だけでなく、韓国やシンガポールなどとの国際的な比較も分析してほしい。また、中津委員の指摘のように大きなコンセプトをもう少し考えてみたほうがよいのでは。はじめから各論の部分に入りすぎている気もする。
須賀委員	今回新たに導入機能として提示されているのが、学術・文化、芸術、市民活動、生涯学習といった機能であり、市民に目を向けた見直しの方向性はよいと思う。青森ではないが今まで郊外に点在していた公共施設を中心市街地を集めて、拠点と地域の交流を活性化していくことが必要だ。コンパクトシティの意義は何かということをもっと訴えていったほうがよいと思う。
古池会長	宇都宮市の総合計画でも掲げているネットワーク型コンパクトシティを実現するためには、東口はもとより西口や都心部との役割分担をしっかりと行う必要がある。事務局で提案した機能のほかに何か意見はあるか。
國谷委員	資料にあるプロスポーツ支援機能とは具体的には何か。
事務局	プロスポーツの情報を市民に提供できるような機能をイメージしている。
大森委員	導入機能案が例示してあるが、現況でどこに課題や問題があってそれをどうしたいのか、それをどう解決するのかを明確に示したほうがよい。
酒井委員	西口のララスクエア店内でも空いているスペースがあるように見受けられる。事例紹介された盛岡市のアイーナのようにひとつの建物に無理に機能をつめこむのではなく、既存の施設を活用して分散させることも必要である。また、先ほど中津委員が指摘したように宇都宮の玄関口ということを見ると、市民も大切だがシンボルとなる核の施設にもしっかりとした議論を行わなければならない。
古池会長	すべての機能を集中させるのではなく、駅西口、駅東口に機能分担しながらもってこることが必要だ。
中津委員	宇都宮の東部地区は公共施設など最低限の範囲でしか整備されていないのが現状であり、ベルモールショッピングセンターができるまでは商業施設もなかった。私はそこにクオリティーの高いものを期待したい。それには民間の力を大いに活用し、もっともっと議論をしながら全体のイメージを固めていければと思う。
柿沼委員	コンベンション協会でも開催状況を把握しているが、実際に定期的開催されている。コンベンションホールをつくることによって大きな効果が期待できるが、アフターコンベンションの整備も重要になってくると思う。栃木県は世界遺産の日光や那須などの観光地があり、市内だけでなく広域的に連携を図っていくことが重要だ。
荻委員	コンベンション施設をつくるという前提があるが、導入機能を議論するのがもともとの趣旨だと思う。また、コンベンションに意見が集中するのはそれをつくるにあたっての不安要素が払拭されていないからだと思う。失敗事例から学ぶ方法も有効なのではないか。私は「21世紀のまちづくり」というイメージがまだ浮かんでこない。大きな枠組みも含めてみんなで細かく議論をすすめていきたい。

古池会長	コンベンションをつくとまだ決めたわけではなく、他の施設も含めてもっと議論していかなければならない。
南木委員	5年ほど前宇都宮大学で、鉄道の地方路線の成功事例、失敗事例を発表する講座があった。私は失敗した事例を聞いたのだが非常にためになった。なぜこんなことが起きたのかといった具合に失敗例を聞くことも参考になる。そういうこともやってほしい。
今井委員	駅東口の開発には民間の力を活用していくわけだが、どのような施設が来るのか気になっている。公共的な設備はここにいる全員の力で導かれると思う。
古池会長	公共だけでも民間だけでも限界があり、両方がうまく組み合わせることが望ましい手法だ。
南木委員	平土間式ではバスケットなどのいろいろなスポーツを行うことが可能なのか。
事務局	考えているのは会議特化型の施設であり、会議、展示、イベントなどを目的とするものである。天井高が低くスポーツを行うのは厳しい。
古池会長	例えばさいたまアリーナのようなものだと稼働率はどれくらいなのか。次回の会議までに可能であれば提示してほしい。
林委員	中国など海外新興国の成長は非常に早い。そういった国際競争に負けないためにも、しっかりとした議論をしていかなければならず、いざつくった方がいいが結局人が集まらなければ意味がなくなってしまう。
古池会長	宇都宮市も都市ブランド戦略として100年先も誇れるまちづくりを目指している。次代の変化に応じていけるような施設整備に取り組んでほしい。時間の都合もありそろそろ終わりにしたいと思うが、事務局は今日の意見をしっかりと吟味していただき、今後の方針に反映させてもらいたい。
その他	
事務局	今後の日程だが、本日いただいた意見を踏まえ庁内で検討を進めるほか、事例調査や情報収集をして、次回の会議で報告したいと考えている。また、次回は6月下旬の開催を予定している。
古池会長	以上で第2回宇都宮駅東口地区整備推進懇談会を終わりにする。